



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

これからどのような英語教育が求められるのか

吉田研作

yosida-k@sophia.ac.jp

Fish Bowl Model

1. Reliance on Others

Teacher-centered, passive learning

2. Preservation of Ideal Environment

Intolerance of errors

Use of 'other' models (native speaker)

3. Isolation—Artificially Limited Environment

Communication with outside not required

Applicable only to given environment

Open Seas Model

1. Reliance on Self

Learner-centered, active learning

2. Adaptation to existing environment

Tolerance of mistakes & non-native forms

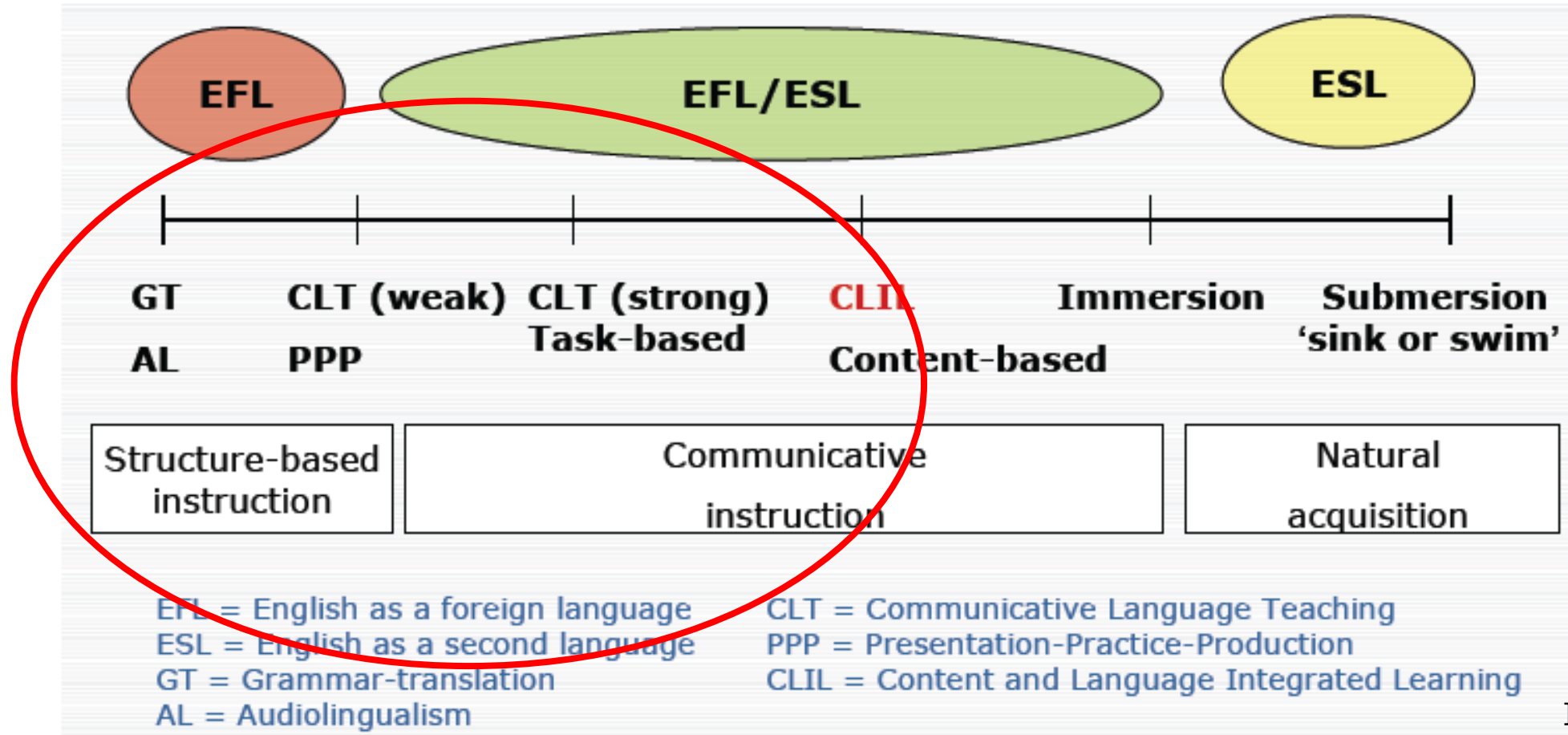
Acceptability & Diversity of values as norm

3. Co-existence—naturally selected habitat

Importance of cross-cultural understanding

Communicability in international setting

Types of L2/FL teaching approaches



Ikeda, 2011

Structure-based から Communication-based への移行

コミュニケーション能力の基準としてのCEFR Can-do Statements

英検の級との関係

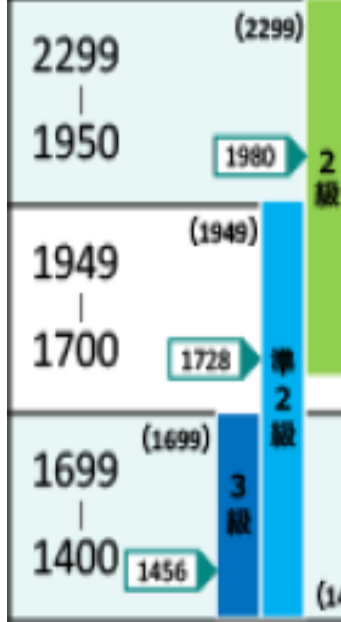
高等学校



中学校

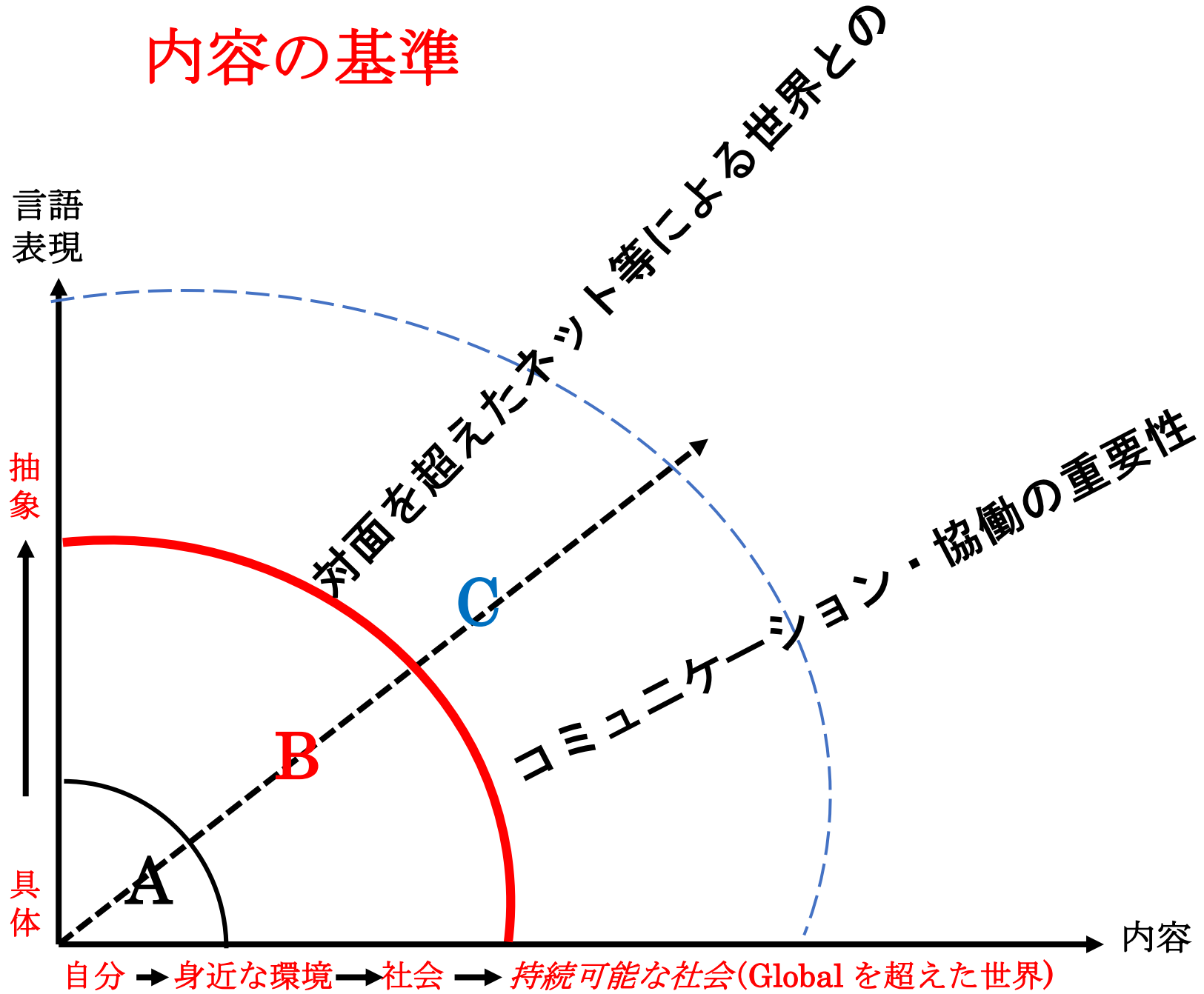


小学校



段階	CEFR	能力レベル別に「何ができるか」を示した熟達度一覧
熟達した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

内容の基準



例えば

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

<p>1 貧困をなくそう</p>  <p>(貧困)</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>  <p>(飢餓)</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  <p>(保健)</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <p>(教育)</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>  <p>(ジェンダー)</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>  <p>(水・衛生)</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  <p>(エネルギー)</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>  <p>(成長・雇用)</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  <p>(イノベーション)</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>  <p>(不平等)</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  <p>(都市)</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>  <p>(生産・消費)</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>  <p>(気候変動)</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>  <p>(海洋資源)</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>  <p>(陸上資源)</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>  <p>(平和・公正)</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>  <p>(パートナーシップ)</p>	<p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p> <p>2030年に向けて 世界が合意した 「持続可能な開発目標」です</p>

ニューノーマル時代の英語教育

Approach: *What is 'language'—what do we want our students to learn and acquire?*
: *How do we learn language(s)—first as well as second?*

→ *language = main purpose is communication*
learned best through process of communication (meaningful and authentic tasks)

Design: *What kind of curriculum should we use to realize the Approach?*

→ *CEFR (performance) criteria > Structural criteria*
Content (e.g. CLIL) > learning 'about' language

Procedure: *What kinds of teaching techniques should we use in our teaching?*

→ *Face-to-face, on-line, hybrid, etc.*

目的に応じて最も適している**Procedure**を考える必要がある

Face-to-face (real-time)

Off-line (ビデオ、音声資料、テキスト、練習用教材、参考資料等)

On-line (zoom 等、webinar、conference、等)

他校生と交流、海外の学校等との交流、ゲストによる遠隔講義、VR体験、等

教科書を教えることから教科書で教える、また、反転授業の実現